

雪に閉ざされる植物群落

あまかざり てんぐほらやま

雨飾・天狗原山

生物群集保護林

設定目的

冬は雪の日が多く、夏は晴天の日が多い特徴を示す日本海型気候帯の保護林です。

日本海側には、その環境に適した性質を持つ植物が多く自生しています。例えば、ササであれば、根曲竹の名前で知られるチシマザサや、ちまきを包むのに使われるチマキザサは、日本海側に分布しています。これは、高く積もった雪が、茎の途中にあるササの芽を、寒さや乾燥から守るためといわれています。

このような日本海型気候帯に属し、我が国有数の豪雪地帯である雨飾山（一九六三㍎）、天狗原山（二一九七㍎）周辺における植物群落を保護しています。

地況・林況

上信越高原国立公園西端の雨飾山、金山（二二四五㍎）、天狗原山を結ぶ稜線（新潟県・長野県境）から南側の斜面に位置しています。ミヤマナラ、コメツガ、ブナ、オオコメツツジ、ミヤマハンノキ等から構成される天然林となっています。

チマキザサが優占する雨飾山頂上付近から天狗原山を望む。

所在地
長野県小谷村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

中部の保護林(第11回)